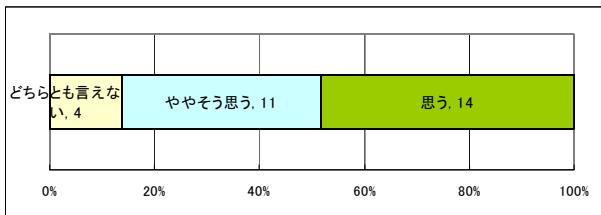


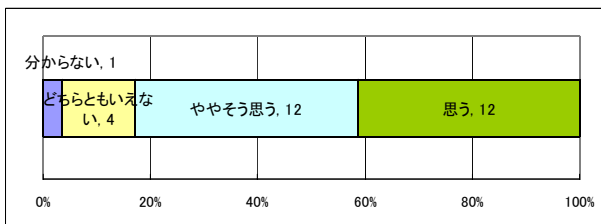
A校職員アンケート結果（平成17年12月実施）

Q1 特別支援教育を組み入れたことにより生活指導委員会は気になる子へより適切な支援ができる組織になってきたか



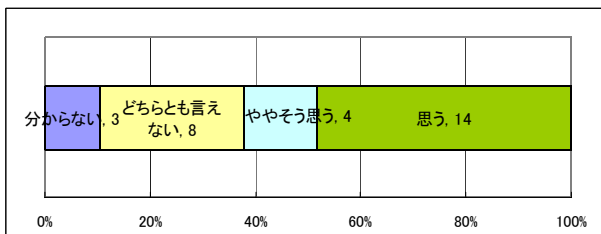
「チームを作ったことで具体的な支援や担任との連携が深まった」「組織的に動くことで計画的に支援を行うことができるようになった」「支援の内容がより具体的になった」「委員会に出ていると分かるが全体はまだ」

Q2 チーム支援は気になる子への適切な支援につながったか



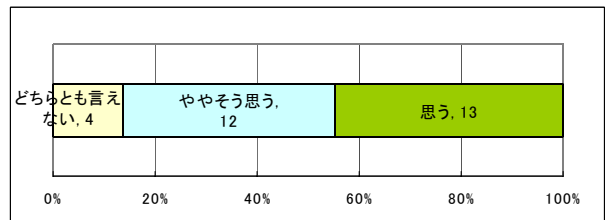
「担任の負担が減りより細かな支援につながった」「少しずつではあるが児童に変化が感じられる」「客観的な目が加わったと思う」「動き出したばかりなのでははっきりと言えない」「当事者でないので分からない」

Q3 特殊関係からの支援(特学、言語担当者の直接支援、特殊関係の教室、教材教具の活用、検査、指導のアドバイス)は気になる子への適切な支援につながったか



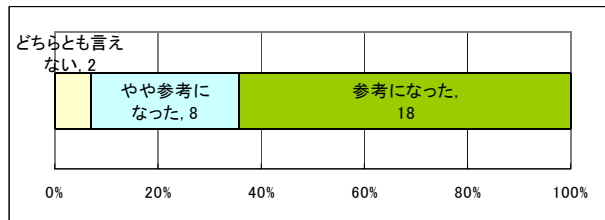
「特学担当や言語担当は専門知識を持って対応できるのでその支援が適切にでき期待するものは大きい」「アドバイスは役に立った」「直接関わらなかったのだから分からない」「個別の指導で力を伸ばしている思う」

Q4 校内研修や特別支援教育により、障害や気になる子の特性を知ることによって、教室にいる子どもたちへの理解を深めるのに役立ったか



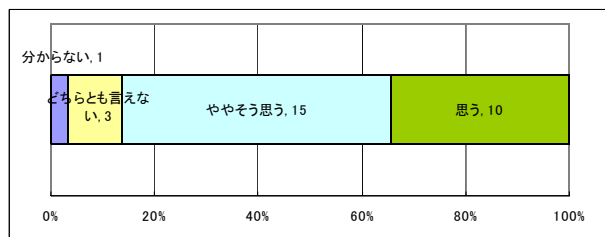
「学習が遅れがちな児童に教材の提示の仕方など考えるようになった」「特別支援教育的な視点から子どもを見る習慣がないので情報が得られるとありがたかった」「全ての子を同じに見るのではなくその子なりの背景を考えなくてはと強く思った」「事例がありわかりやすかった」「日頃の悩みに答えてくれる内容だった」

Q5 特別支援教育の考え方や方法は学級の支援での支援に参考になったか



「子どもの見方がかわった」「具体的だったので」「取り組んでみたいと思った」「宿題や課題で段階を付けることができた」「一人で悩んで困って進歩しないのではなく、積極的に取り組めたことは子どもだけでなく担任にとっても良かった」

Q6 学級で気になる子がいたときには、担任が抱え込むのではなく生活指導委員会で話し合い、全校で支援をしていこうという意識が校内に培われてきたと思うか



「全体としてはよい方向に向かっていると思うがまだ支援し切れていない。実際に問題を抱えている担任や気付かない担任も多いのではない」「組織化することは大きな学校では特に必要。良い方向に向かっている」「定期的に話し合っていることがよい」「生活指導委員会の内容が少し変わり全体でという意識は出てきたように思う」